

(2) 学校再編に関わるこれまでの経過とこれから

本日の日本海新聞に校名問題に関わった記事が大きく取り上げられていました。議会としても昨年の9月議会から関わりを持ち、今日に至っています。この問題に関する一人一人の関わりは様々な記録等をご覧いただければと思いますが、今は、次に向けてしっかりと歩を進めたいと考えます。学校再編は「明日の倉吉の教育を考える委員会」(平成20年～)の提言から始まり、平成28年3月の「倉吉市立小学校適正配置推進計画」には、学校規模の基準として、小学校：1学年1クラス以上を構成できる小学校。複式学級の解消。適正化すべき小学校 児童数120人未満

中学校：1学年2クラス以上を構成できる中学校が望ましい。適正化すべき中学校 1学年2クラス未満(平成30年に「中学校の適正規模、校区のあり方」について、学校教育審議会に諮問し、答申をいただく。平成32年に出された答申を元に広く市民の意見を聞き、今後の方向性を出す。)とあります。

来年4月の、久米小学校、新小鴨小学校の開校で「複式学級の解消。」は実現します。

今議会で「成徳小学校」を「打吹小学校」と改正し、令和6年4月1日から施行する議案が上程されています。これに先立ち、成徳地区・灘手地区・明倫地区の小学校児童と未就学児家庭へのアンケートを行っています。

問⑧

①適正配置推進計画で残された、小学校では明倫小と成徳小、社小と久米小の再編、中学校の再編はどうなるのですか。

②市内小中学校の校舎等の一部を除き築後40年以上たち老朽化しています。職員配置やよりよい教育環境という点からも現状の変更が必要です。今後の学校再編計画の考えはありますか。

答弁

今は、来年度、久米小、小鴨小の開校を控え、両校の学校運営の円滑なスタートできるよう全力を注ぎたい。

現在の統合は、令和2年の修正案に基づいて行っている。今後は、学校教育審議会を始め、明日の倉吉の教育を考える委員会のような機関を再度設置して10年・20年先を見据えた検討も必要と

考えている。

明倫と成徳との将来的な統合については、令和11年度児童数は両校とも複式学級となるような人数ではないため、複式学級を理由に学校統合するということにはならないだろうと想定しているが、ただ、複式学級を待たず、早く統合して複数学級で切磋琢磨させながら児童を育てたいという保護者や知己の願いが出てくれば可能性としてはあり得ると思っている。2校の集合学習は、今後も行っていく、地域・保護者には働きかけていきたい。

久米小は、令和12年に複式学級となることが予想されている。

中学校再編について、中学校の全生徒数は、令和5年度1129人、令和11年度1090人で徐々に岩礁が進んでいる。令和11年度東中は増加傾向、河北中は横ばい、西中は少し減少、久米中は100人を下回る予想、鴨川中は60人を下回る見込みとなっている。中学校の再編は、来年度からでも検討を始めたい。10年・20年先を見据えて、学校教育審議会を始め、明日の倉吉の教育を考える委員会のような機関を設置して検討していきたい。

．．．．

校舎について。市内小中学校で築40年以上が8校。想定耐用年数は60年としており、計画に基づいて維持・修繕を行っている。その費用、児童生徒数の推移、県内他市町の状況や他県の様子など検討した上で進めていきたい。

* 答弁を受けて *

明倫小学校の卒業生は3年間の移行期間を経て、再来年度には全員東中に進学します。校章、校歌は3校が一緒になることを想定してつくられ、校名も3地区の家庭アンケートをもとに上程されています。すぐにでも一緒になるとか勘違いしている市民もおられる。説明は十分にしていきたい。

子どもの数がびっくりするくらい減っている。湯梨浜町では一つの中学校に再編しています。また、県内でも児童生徒数が減少する中、鳥取市や日野郡のように9年間の義務教育学校を設置しているところもあります。何が子ども達にとって、地域・保護者にとってよりよい環境なのかを教育委員会を中心として、色々意見を伺いながら前に進めていきたい。